

市が管理する防災井戸等における有機フッ素化合物（PFAS）に関する水質検査結果について

市は、環境省が公表した「PFASに関する今後の対応の方向性」に基づき、市内における環境モニタリングの強化の一環として、市が管理する防災井戸等における水質検査を実施しました。

1 測定地点

市の管理する防災井戸29か所と湧水1か所の計30か所

※いずれの井戸、湧水も飲用に供しておりません。

※令和7年度は2か所（第一小学校、石原小学校）が水量不足等により採水不能

2 検査期間

令和7年12月

3 検査項目

3項目（PFOS（ピーフォス）、PFOA（ピーフォア）、PFHxS（ピーエフヘクスエス））

4 指針値

PFOSとPFOAを合わせて50ng/L（PFHxSについては、現時点で基準なし）

5 検査結果

採水不能2地点を除く全ての地点（28か所）で国の指針値（50ng/L）以下

6 検査結果の公表

市報4月5日号及び市ホームページ

調布市PFAS専門アドバイザーのコメントを付して公表

【調布市 PFAS 専門アドバイザー】

- ・東京農工大学 高田秀重名誉教授（有機化合物（化学）、調布市環境保全審議会会長）
- ・東京都立大学 奥真美教授（環境規制（法学）、調布市環境保全審議会副会長）
- ・東京大学大学院 徳永朋祥教授（地圏環境システム学、東京都土壤汚染対策検討委員会委員）

7 今後の対応

環境省の「PFASに関する今後の対応の方向性」（令和5年7月）及び「PFOS及びPFOAに関する対応の手引き」（令和7年12月更新）に基づき、市内における環境モニタリング強化の一環として、令和8年度においても、市の管理する防災井戸等30地点について水質検査を継続し、市のPFAS専門アドバイザーからの御助言を受けながら、市民の不安解消・軽減に向けて、適切な対応を図って参ります。

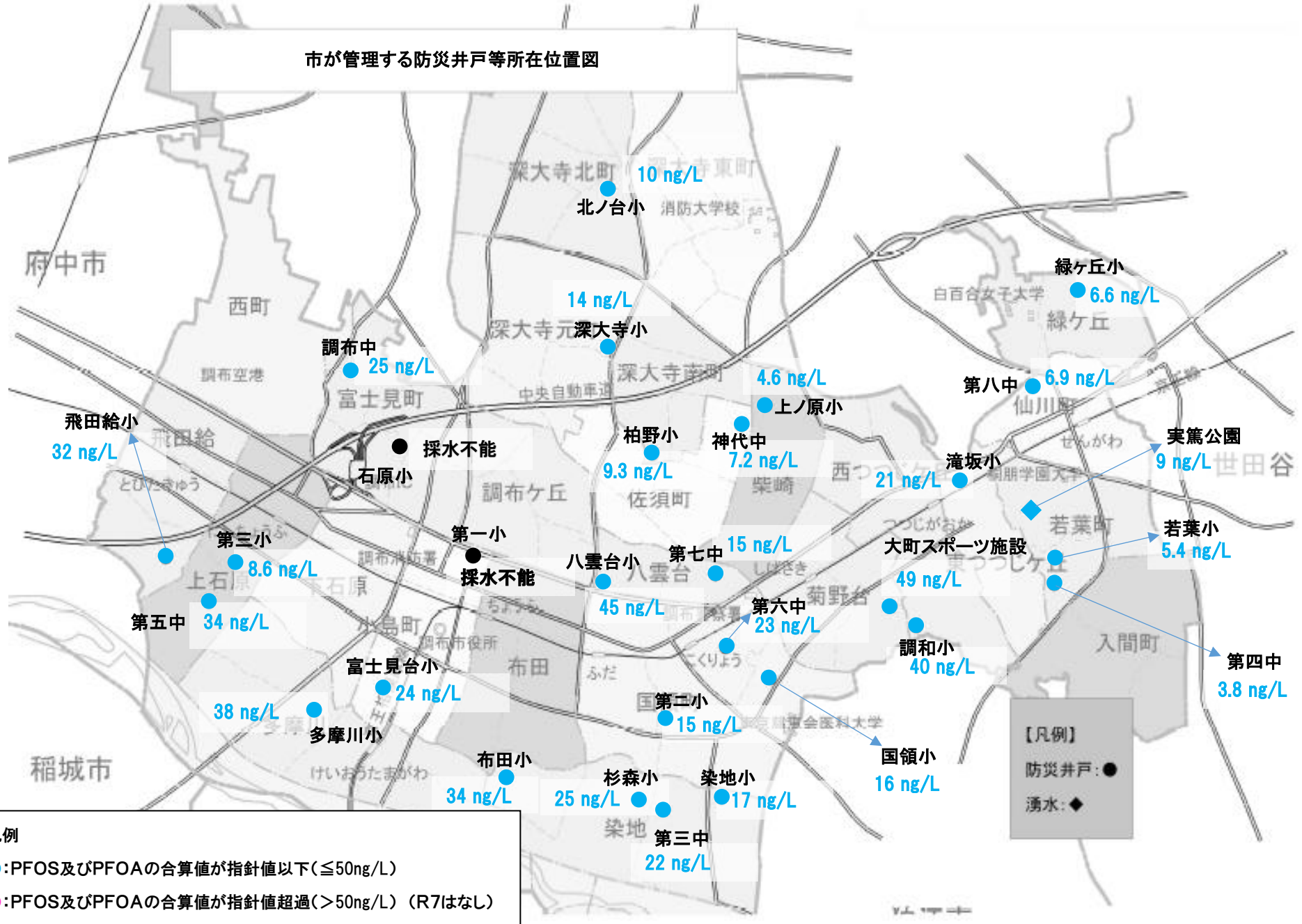
令和7年度 市有地測定結果一覧

単位；ng/L

区分	No.	施設名	井戸の深さ(m)	PFOS及びPFOA			PFHxS	【参考】PFOS及びPFOA	
				PFOA	PFOS	PFOA		R 6年度	R 5年度
防災 井戸	1	第一小学校	15	-	-	-	-	10	16
	2	第二小学校	15	15	9.5	5.5	8.2	17	16
	3	第三小学校	10	8.6	3.4	5.1	1.7	9.7	11
	4	八雲台小学校	10	45	37	8.3	34	43	44
	5	富士見台小学校	20	24	17	6.5	12	21	29
	6	滝坂小学校	15	21	13	7.5	1.5	19	19
	7	深大寺小学校	30	14	9.8	4.4	4.5	14	24
	8	上ノ原小学校	30	4.6	1.9	2.7	2.1	5	9.2
	9	石原小学校	10	-	-	-	-	15	27
	10	若葉小学校	15	5.4	1.4	4	0.8	15	3.7
	11	緑ヶ丘小学校	10	6.6	4.2	2.4	1	41	5
	12	染地小学校	10	17	11	6.4	8	16	21
	13	北ノ台小学校	15	10	6.4	4.4	3.3	13	17
	14	多摩川小学校	10	38	25	12	17	40	42
	15	杉森小学校	10	25	17	7.7	5.5	25	29
	16	飛田給小学校	10	32	17	15	20	23	35
	17	柏野小学校	15	9.3	5.1	4.1	0.6	12	16
	18	国領小学校	20	16	10	5.7	3.1	14	18
	19	布田小学校	10	34	23	11	13	36	31
	20	調和小学校	20	40	30	10	6.5	56	59
	21	調布中学校	15	25	19	5.3	15	18	25
	22	神代中学校	20	7.2	2.2	4.9	1	8.6	9.3
	23	第三中学校	10	22	15	7.3	5.6	40	52
	24	第四中学校	15	3.8	2.4	1.3	0.5	4.8	7.1
	25	第五中学校	10	34	22	11	17	36	38
	26	第六中学校	15	23	17	5.3	15	21	25
	27	第七中学校	15	15	8.1	7.1	2.8	18	20
	28	第八中学校	15	6.9	4	2.8	1.1	8.5	8
	29	大町スポーツ施設	20	49	36	13	4.5	68	61
湧水	1	実篤公園	—	9	4.9	4.1	1	11	12
		定量下限値	—	0.5	0.3	0.3	0.3	0.5	0.5

- ・PFOS及びPFOAの測定値は、PFOS測定値とPFOA測定値の合算値である
- ・端数処理により個別値の合計と合算値が異なることがある
- ・赤文字：PFOS及びPFOAの（暫定）指針値（50ng/L）の超過を示す
- ・定量下限値は、正確に定量できる最小値
- ・令和7年度の第一小学校、石原小学校は水量不足などにより採水不能

市が管理する防災井戸等所在位置図



凡例
 ●:PFOS及びPFOAの合算値が指針値以下(≤50ng/L)
 ●:PFOS及びPFOAの合算値が指針値超過(>50ng/L) (R7はなし)

【凡例】
 防災井戸: ●
 湧水: ◆

調布市PFAS専門アドバイザーからのコメント

◎東京農工大学 高田 秀重 名誉教授

(専門：有機化合物(化学) 調布市環境保全審議会会長)

「今回調査・分析した調布市所有の防災井戸27地点と湧水1地点、計28地点全てからPFAS(PFOS, PFOA)が検出されたが、いずれもPFASの指針値の50ng/Lを下回っていた。また、これらの地下水は飲用には供されていない。これらを考慮すると、調布市内の地下水のPFAS汚染による市民の健康リスクは、現状、小さいと考えられる。しかし、調査した全地点でPFASが検出されたことと半数以上の23地点のPFAS濃度が指針値(50ng/L)と同じ2桁台であることを考えると、今後もモニタリングを継続し、安全・安心を確認することが望まれる。」

◎東京大学大学院 徳永 朋祥 教授

(専門：地圏環境システム学, 東京大学大学院新領域創成科学研究科)

「調査対象の防災井戸等は飲用に供していないとのことですので、引き続き飲用とはしないということについて市民の方々と理解を共有いただくことが重要と考えます。市としてこのような調査を継続して行い、また、その結果を市民の方々へもお伝えされていることについては、今後もぜひ続けていただきたいと思います。なお、検査されている項目の濃度に加え、地下水位や、他の水質項目の特徴の情報収集や整理も進めていただき、地域の地下水の現状をよりよく知ることに努めていただくことを期待しています。」

◎東京都立大学 奥 真美 教授

(専門：環境規制(法学) 調布市環境保全審議会副会長)

「調布市では令和5年度から継続して市が管理する防災井戸等の水質調査を実施してきました。3年間の経年変化を見ると、初年度に暫定指針値が超過していた一部の箇所も含めて、令和7年度は調査対象となった全ての箇所で指針値内に収まる結果となっています。今後も、経年的な傾向を把握して、状況を分析・評価したうえで、適切な対応につなげていくとともに、市民等に対してタイムリーで的確な情報発信を徹底していただくようお願いします。」